

令和7年2月15日(土)実施

中期

国語 (50分 100点)

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにしてください。
解答用紙は別になっています。
- ② 問題は 【一】 ～ 【三】 まで 3 題あります。
- ③ 試験時間は 50 分です。
- ④ 解答用紙には、以下の例にならって受験番号、中学校名、氏名を必ず記入してください。

受験番号: 1038 氏名: 興南 太郎 出身中学校: ○○○○中学校 の場合の記入例

 のところへ記入してください。

得点(記入しないこと)

令和○年度 ○○入試 ○○解答用紙	
氏名	興南 太郎

(記入例)

良い例		
悪い例	  	

出身中学校 ○○○○ 中学校

番号

1									
0									
3									
8									

記入しない

左から順に0～9がならんでいます

- ⑤ 解答は解答用紙の所定のところに記入してください。
- ⑥ 解答は楷書で丁寧^{かいいしよ}に記入してください。
- ⑦ 抜き出し問題にルビがふってある場合、ルビは抜き出さないでください。
- ⑧ 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【一】次の【文章1】と【文章2】とを読み、後の各問いに答えよ。また、解答は階書で丁寧^{せう}に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合不正解とする。

【文章1】

「こつくりさん」は、民間でおこなわれる占法^{せんぽう}の一つで、明治中期、欧米で流行していたテーブル・ターニングが移入され、日本的な変化を遂げたものと考えられている。テーブル・ターニングとは、複数の人々^aがイスに座ってテーブルのまわりを囲み、それぞれテーブルの上に手を置き、隣の人の手の上に自分の手を重ねて霊を呼び出すものである。霊が現れると、テーブルが大きく動きはじめる。そのとき、霊に対して「テーブルが右に傾いたらYES、左に傾いたらNO」などと取り決めをし、霊に質問する。すると霊は、質問の内容に応じてテーブルを傾けるといふ。「中略」

当時の日本では、テーブルもイスも一般的でなかったため、代用^bのソウチが考案された。生竹三本をひもで括^くり、その上に飯櫃^{いびつ}の蓋やお盆を載せる。この蓋やお盆の上に複数の人間が手を置いて霊を呼び出す、というものである。「こつくりさん」という名称は、この蓋やお盆が「こつくりこつくり」傾くことから命名されたという。つまり当初の「こつくりさん」は、単に動く様子を伝えるペンギ^cテキな名称にすぎなかったわけだ。また、だからこそこの遊びは急速に普及したのだともいえる。

①「こつくり」に恐怖の要素は存在しない。

この遊びによって呼び出される霊はなにものなのか、という疑問に対して大方の支持を得たのは、狐狸^{*1}説である。位の高い神霊が、明日の天気や個人の恋愛といった質問に答えるため、わざわざ一般家庭のお茶の間に来てくださるわけがない。こういう遊びの場に現れるのは、人をだましたくてウズウズしている狐狸の類いにちがいない、という理由である。ここには、江

戸時代の「人を化かす動物」としての狐狸イメージが色濃く投影している。^②こうした理解は、やがて憑物信仰と結び付いていた。

憑物信仰とは、特定の動物霊、または生霊が人間に取り憑いて災いをなす、とするものである。「こつくり」という名称に狐、狗(犬)、狸という代表的な憑物の漢字をあてたことで、「こつくり(狐狗狸)さん」は恐怖の参入儀式に変容していったと考えられる。「こつくりさんをおこなうと、場合によっては動物霊などに憑依^{ひょうい}される」というリスクが強調されることで、「こつくりさん」はタブーの儀式となったのである。

この間、「こつくりさん」のソウチもさまざまに変化していった。戦時中の先がみえない不安な世相のなか、国内で、また海外で「こつくりさん」は盛んにおこなわれたという記録が残っている。しかし、明治中期の導入期を除いて、「こつくりさん」が社会問題化したことはなかった。「こつくりさん」のヘイガイがメディアによって声高に訴えられるようになったのは、一九七〇年代以降である。

一九七三年から七四年にかけて、日本は空前のオカルトブームに襲われた。この間、UFO、心霊写真が話題になり、スプーン曲げなどの超能力がマスコミをにぎわせた。なかでも世間を騒がせたのが、小・中学校を中心に大ブームとなった「こつくりさん」である。例えば「こどもが目の色変えた世界 教師の心配 スプーン曲げとコックリさん」(「朝日新聞」一九七四年五月二十六日付)などの記事が、当時のモヨウを生々しく伝えている。

また、小・中学生を中心とする「こつくりさん」受容者層に大きくアピールしたのが、つのだじろうの一連の漫画である。つのだの作品は心霊世界をリアルなタッチで描き、のちに「心霊漫画」と呼ばれるジャンルの先駆けとなった。なかでも『うしろの百太郎』は「心霊恐怖レポート」という副題が示すとおり、「いま、ここ」で生起している多様な心霊現象をクロース

アップした。そのなかの一つが「こっくりさん」である。つのだは『うしろの百太郎』のなかで「こっくりさん」に関する歴史的な経緯を詳細に説明したうえで、「正しい」「こっくりさん」の仕方を紹介してみせた。

しかし、全国の小・中学生のあいだで「こっくりさん」が爆発的に流行しはじめると、「こっくりさん」をおこなって身体に異常が生じたと訴える者が続出した。こうした状況を受けて各種メディアが名指しでつのだを批判したため、つのだと「週刊少年マガジン」編集部は、その対応に苦慮することとなる。

ちなみに講談社漫画文庫版『うしろの百太郎』(『うしろの百太郎―心霊恐怖レポート』全六巻、講談社、一九九六年)は、^③連載当初の内容から大幅に改変されている。「正しくやればこっくりさんは問題ない」という連載時の主張は覆され、現行版では「絶対にやってはいけない」という全面否定の論調に統一されている。こうした処置は、当時の反響の大きさをゆえにおこなわれたと考えられよう。「こっくりさん」をおこなうと、場合によっては動物霊に憑依される、または死者の霊に取り憑かれる。このようなイメージが定着することで、あらためて「こっくりさん」は恐怖の参入儀式というイメージを確立していた。^④

しかし「こっくりさん」に内包された恐怖のイメージは、このあと徐々に変質していく。その変化がはっきり見られるのは、中岡俊哉『狐狗狸さんの秘密』の増補版(二見書房、一九八四年)である。初版では「こっくりさん」に死の予言をされてしまった北海道の女子中学生の話を具体例として取り上げるなど、恐怖の要素が強調されていた。しかし増補版の見出しに記されたキャッチコピーでは、強調するポイントが明らかに変化している。次の文言である。

恐るべき的中率を誇る謎の心霊現象　いろは四十八文字の上をあなたの指先が縦横に動いてコックリさんの『お告げ』

を示す！ 知りたいことわからないことに答えてくれる未来予知の超科学の不思議誰にでも簡単にできて良く当たる！
恋人のことや入試など身近な問題ばかりでなく行方不明者の捜索や犯人捜しまでどんなことにも答えてくれる神秘の自動書記現象にキミも挑戦してみないか！

ここでの「こっくりさん」は「未来予知の超科学」である。それは不可知な世界と接触してしまうリスクな儀式ではなく、むしろ普通に「挑戦」可能な心靈現象として意味づけられている。「超科学」「神秘の自動書記現象」とあるように、オカルティックな要素が完全に払拭されたわけではないが、この文言から土俗的な恐怖を読み取るのは難しい。こうした「こっくりさん」の変容の様態は、例えば美堀真利『コックリさんの不思議』（舵輪ブックス）、日本文芸社、一九八四年）にくつきりと現れている。

まず表紙のイラストが違う。美しい女性の頭の上に、微笑を浮かべた狐が乗っている。「こっくりさん」にまわりついていたおどろおどろしさは、すでに拡散している。さらに、この本のモチーフは「コックリさんで幸せに」である。要するに「こっくりさん」のもつ恐怖を低下させ、占いの要素を強調することで、「こっくりさん」の換骨奪胎を図っているわけだ。同書のイラストやモチーフから浮かび上がってくるのは、ターゲットとしての「少女」たちである。

【一柳廣孝『こっくりさん』と『千里眼』・増補版』（青弓社）より抜粋 作問の都合上、一部改変および加筆】

【注釈】

*1 狐狸 キツネとタヌキ。ともに人をばかすと信じられていたもの。

【文章2】

ちなみに、この70年代のブームに至るまで、「コックリさん」が大きく流行した時期は少なくとも2回あったといわれている。一度目は海外からの伝来時期にあたるとされる明治から大正にかけてのころ。このときに流行の発信源になったのは主に芸妓げいぎの女性たちで、*₁花街における酒宴の余興としてブームになったらしい。その次が戦中だ。出征した夫の安否を占うため、*₂銃後の主婦の間で行われることが多くなったという。一説によれば、それまでの古典的「コックリさん」は割り箸やおちよこを用いる方法で行われていたが、このころに硬貨（五銭銅貨など）が使われるようになったのだそう。こうした背景には、「夫に四銭九銭（死線苦戦）を越えてほしい」という戦時の妻たちの願いが込められていたといわれている。もちろんあくまでも気休め的なものであつて、夫が遠方の戦場に出ている間の不安を紛らわせる手慰てなぐさみのようなものだったのだと思うが、従来は「酒宴の余興」でしかなかった占い遊びの「コックリさん」は、この段階で少々シリアスなものに、いわば戦時特有の憂鬱な気晴らしのようなものに変容していったのかも知れない。

おもしろいのは、70年代のブームのときも、若者文化のなかでブレイクする以前の「コックリさん」は、バーなどの飲み屋のカウンターで披露されることが多かったことだ。

当時は酒の席で不思議な手品（ビール瓶やマッチ棒などを使ったトリック）などがオジサン連中の間で散発的に流行していたが、「コックリさん」もこういうもののひとつとして夜の酒場で話題になっていたらしい。戦中に主婦の間で流行していた「悲しい遊び」を、その息子世代のオジサンたちが酒場で細々と継承していたということなのだろう。

ブーム以前の「コックリさん」についてはとにかく資料が少なく、今となつてはこのあたりの事情は勝手に推測してみるし

かないのだが、最初期に花街の「酒宴の余興」として普及した「コックリさん」が、戦後、再び同じような形でバーやスナックでのたわいもない「芸」として復活してきたとき、この戦後型の「コックリさん」は、やはり明治期のそれとはだいぶ違った性質のものになっていたのではないか。戦争を通過してきたことによって、つまり直接的に近親者の生死を占う「悲しい遊び」として捉えなおされたことによって、どことなく重く暗いものになっていたのではないだろうか。ただの「遊び」として行われながらも、やはりそこには「戦争の記憶」「死の記憶」がまわりつき、「余興」として単純に楽しむにはちょっと不吉な、一種の「嫌な感じ」を漂わせる雰囲気 را帯びていたのではなかったかとも思うのだ。

70年代にリバイバルした「コックリさん」がことさら「怖いもの」としてクローズアップされ、盛んに「遊び半分で行ってはいけない」と警告された背景には、なにか^⑤こうした事情もあつたような気がする。

【初見健一「昭和子ども交霊術ブームと「脱法コックリさん」の進化」『webm』(二〇二二年十月十一日)より抜粋作問の都合上、一部改変および加筆】

【注釈】

*1 花街 料理屋や芸妓の店などが集まる街。芸妓とは、歌・三味線・舞踊などで酒宴の客を楽しませる女性のこと。

*2 銃後 戦場の後方。また戦時、直接の戦闘に加わらないで、前線の背後にあってこれを支援すること。

また、その一般国民および国内をいう。

問一 【文章1】の二重傍線部a～eのカタカナを漢字に直して答えよ。

- a イスに座って b 代用のソウチ c ベンギテキな名称 d 「こっくりさん」のヘイガイ e 当時のモヨウ

問二 【文章1】の傍線部①「ここに恐怖の要素は存在しない」とあるが、では「こつくりさん」に恐怖の要素が現れ始めたのはどの時期においてか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「狐狗狸」の漢字がその名称にあてられた時期。 イ テーブルターニングとともに霊の存在が知られた明治中期。

ウ メディアによつて批判がなされた一九七〇年代。 エ 「こつくりさん」が「少女」たちに歓迎されはじめた時期。

問三 【文章1】の傍線部②「こうした理解は、やがて憑物信仰と結び付いていった」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「こつくりさん」の場に位の高い霊が来るわけがないという考えが、本当は人をだましたい狐や狸などの動物の霊が来ているに違いないという考えと結びついたということ。

イ 「こつくりさん」の場に現れるのは人をだます狐狸などの霊だという考えが、霊が人に取り憑いて不幸をもたらすという考えと関連していったということ。

ウ 「こつくりさん」を行う際のこつくりこつくりと動く様子が、人をばかす霊である狐や狸、狗のイメージと関連し、「狐狗狸さん」という名称として一体になったということ。

エ 狐や狸、狗などの動物霊が人間に取り憑くという考えが、「こつくりさん」の名称と結びついて、「こつくりさん」をすると呪われるという考えが生まれたということ。

問四 【文章1】の傍線部③「連載当初の内容から大幅に改変されている」とあるが、筆者が考える改変の理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア こつくりさんが禁止される遊びとなった背景には、体の異常を訴える小中学生をメディアが取り上げたことで、正しく

行わないと動物霊に憑依され災いがもたらされるというイメージが定着してしまい、社会問題にまで発展した事態がある。イ正しいやり方をすれば問題ないとされていたこつくりさんが禁止される遊びへと変わった背景には、当時の小中学生の間での心身に異常をきたした訴えがあまりにも多かったことを受け、編集部が霊をおそれて事態を重く捉えたことがある。ウ正しくやればこつくりさんで大きな問題は起こらないとされていた背景には、「こつくりさん」に関する歴史的な経緯を漫画内で詳しく説明しており、それが正しく当時の小中学生に伝わらなかったことに対しての編集部の大きな反省がある。エこつくりさんが絶対にしてはいけない遊びという内容に変わった背景には、当時の小中学生間のこつくりさんの強烈的な流行と、行った子どもに生じた異常に着目したメディアが作者と漫画の編集部を批判した一連の事態の大きさがある。

問五 【文章1】の傍線部④「このあと徐々に変質していく」とあるが、この説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 正しくやれば行ってもよいはずだったこつくりさんが、「こつくりさん」から死の予言をされた中学生の例などを経て、絶対にやってはいけない恐怖の儀式のイメージが強化されたということ。

イ 絶対に行つてはいけない恐怖の儀式であったこつくりさんが、誰でも簡単に行える超科学的な未来予知へと、神秘的な霊の儀式というイメージを脱ぎ去ったただの遊びへと変容したということ。

ウ 恐怖への参入儀式というこつくりさんのイメージから、未来を予言するお告げ、または少女を対象とするような幸福を引き寄せる占いとしてのイメージへと変わっていったということ。

エ こつくりさんは恐怖の儀式から、未来を予知する科学的な遊びへと変化して少年たちに受け入れられ、さらに幸福になれる占いとして少女たちにも広く受け入れられるようになったということ。

問六 【文章2】の傍線部⑤「こうした事情」とあるが、その説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 戦中に夫の生死を占っていた母たちを見ていた息子世代が当時を振り返りながら飲み屋などで遊んでいたということ。
イ 戦中に大切な人が幸福に生活しているかを占う遊びとして定着し、同様の遊びとして七〇年代に再流行したということ。
ウ 戦争や死を連想させるところがある遊びであり、ただ遊ぶには重く暗い、不吉で嫌な雰囲気が漂っていたということ。
エ 明治期とは異なり、七〇年代のブームの際には戦争の記憶の代表的なものとして広く普及されていたということ。

問七 次は【文章1】と【文章2】とを読んだ生徒がまとめたノートである。空欄部A～Fに当てはまる適切な語を【文章1】と【文章2】から指定の字数で抜き出して答えよ。句読点および記号は一字に含むものとする。

明治中期～大正

欧米で流行した【 A (10字) 】が、日本的に変化して誕生。
流行の発信源は、主に【 B (5字) 】たち。
【 C (3字) 】さんの字があてられ、恐怖の儀式的イメージに変容。

戦時中

出兵した夫の安否を占う
銃後の主婦たちの間で、
戦時中の気晴らしのように
流行した「悲しい遊び」。

1970年代

銃後の主婦たちの【 D (4字) 】が、
夜の酒場で披露していた。
小中学校を中心に大ブーム。
身体異常の訴え、メディアによる社会問題化。
漫画などにおける「こっくりさん」の
イメージが次第に変容。
【 E (2字) 】を低下させ、
占いとして【 F (4字) 】が図られた。

【二】次は池田澄子の随筆「うみのそこ」である。これを読み、後の問いに答えなさい。また、解答は階書で丁寧記入せよ。
なお、指示された表記方法以外で解答した場合不正解とする。

「夏休み」という文字を見るとたのしくなる。関係なくなつて随分経つのに不思議である。夏休みに入るとすぐ八月になる。

子供の時には気にも掛けなかつたけれどすぐに立秋。でも、いくら暦の上では秋です、と言われても八月は夏だ。そのうち誰も言い出さなくなるだろうけれど、一九四五年八月十五日は暑かつた。あれは初秋とは言えない。あれは夏の出来事。初めて原爆を落とされた日は夏で、二度目の長崎は秋だった、なんて、あれは猛暑の夏の出来事でしたつ、と、つい息が荒くなるけれど、八月に何か書くこうとすると、ここを避けては通れない。書いても書いても気が済まないものである。でも、ただでさえ暑くて草臥れるのだから、^①元氣を出すために「八月」は忘れて、「夏休み」の方へ気持ちを切り替えよう。

幼稚園の夏休みの記憶はない。小学校入学の頃の記憶も多くはないが、入学前、父の里での、父と一緒に写真がある。父は坊主頭、出征直前だったか。家族を親許に頼んで出征する若い男の氣持つて、どんなものだったろう。結局その後、父は漢口で死んだ。だから私には、父との夏休みの記憶がない。

父の里は新潟の小さな城下町。牛の背の形に似た臥牛山はお城山と言われて、武家の町と町人の町に分かれていた。父の実家は町人の町で、寺町の寺に父の妹が嫁いでいた。そこが菩提寺。^{*2}その寺に父の墓が在る。と言つても、お骨はない。船が沈み、お骨は海に沈んだので、白木の箱に父は居なかつた。

②困った、夏休みの話に辿り着かないではないか。

小学校の夏休みは、午前中は宿題などして、午後は毎日、川で泳いだ。大人が付いていくわけでもなく子供が誘い合つて行

くのである。今の親には想像も付かないほど危険と言えば危険だ。

父の妹がもう一人、近くに嫁いでいて、やはり夫が出征していたので、よく実家に顔を出していた。叔母が来ると、祖母と叔母と母と私はコックリ様をした。紙にアイウエオや数字を書き、隅に鳥居を書く。一本の箸を軽く持ち、「コックリ様コックリ様、お入りください」とか言って、握った箸を鳥居の外側に立てる。目を閉じて祈っていると、箸が小刻みに揺れ始め、かたかたと震え始めて動きだす。

祖母は息子の、叔母と母は夫々それぞれの夫の安否を知りたいのである。「誰々は、元気で居ますか」と尋ねる。まさか本気で信じているわけではないだろうけれど、必死で尋ね箸を握った。箸は少し揺れてかたかたと鳴り、文字の上をさまよう。あ、ハイと言ったとか、分らないらしいとか、ヘンよねえ、と。何故か箸は動いた。

ある時、コックリ様は「うみのそこ」と答えた。

そして一九四四年の夏、父の死を知った。母は戦争未亡人、就学前の弟と赤ん坊の弟と私は遺児となり、父の里に残された。翌年の夏休みには途中で敗戦を知った。

コックリ様を信じていたわけではなかったが、船が沈んでお骨は本当に海の底に居たのねと、いつまでも皆で不思議がった。各家庭で女たちは、恥ずかしく声を潜めて、実は本気で必死で日ごと夜ごと、コックリ様に夫や息子の安否を尋ねていたのだ。

③それしか方法がなかったから。

夏休みも終わり二学期が始まり、暦の上だけではない秋になった或る日暮、母に誘われ散歩に出た。散歩なんてしたことないし、散歩する時刻でもない。母は下の弟をおぶって、上の弟と私の手を引いて歩いた。泳ぎには行っても散歩など行ったことのない川辺をどこまでも歩いた。ああ死ぬつもりなんだ、と思った。怖くはなかった。随分と遠くまで歩いて、行ったこ

とのない大きな橋を渡り、はるばると帰った。そうか、死ねなかったのね、と思った。ほっとしたわけでもない。

祖母は感じていたのかどうか、何事もなかったように夕食になった。

死者は嘆かない。私たちは生きているから嘆くことが出来る。親を家族を子供を守ることさえ出来ず、心残して死んだ父たちは、嘆くことも恨むことも出来ない。

【日本経済新聞朝刊・二〇一三年八月十一日より抜粋 作問の都合上、一部改変および加筆】

【注釈】

*1 漢口 中国湖北省の武漢市の北部の地区。

*2 菩提寺 一家代々特定の寺を埋葬墓所に定め、葬礼や法要を行う寺。

問一 傍線部①「元氣を出すために『八月』は忘れて、『夏休み』の方へ気持ちを切り替えよう」とあるが、筆者は「夏休み」と

「八月」についてそれぞれどのように考えているか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 「夏休み」は自分とは関係のない興味が湧かない言葉であり、「八月」は自身とは関係なくとも、原爆の悲惨さについて怒りっぽくなってしまう季節。

イ 「夏休み」は自身から遠くなってしまったがたのしい気持ちになる言葉であり、「八月」は今でも戦時中を想起して感情がたかぶってしまう季節。

ウ 「夏休み」は暦の上では夏に分類されるが、「八月」は暦の上ではすぐ秋になってしまうものの、どこか自分の体験上、夏として考えてしまう季節。

エ 「夏休み」は自分から随分遠く隔たったイベントだが、「八月」は原爆を体験した自分しか語り継ぐことができない忘れ

ることができない季節。

問二 傍線部②「困った」とあるが、筆者の心情の説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 元氣を出すために自分の幼いころの夏休みについて書き始めたが、自分の生涯がどうしようもなく戦争と切り離せないものであると自覚した。

イ 気分転換をするために夏休みの話題を書き始めたものの、思っていた通りの戦争の話になってしまい、自分の仕方ない様子が微笑ましい。

ウ 気持ちを切り替えて楽しい気分の夏休みについて書き出したつもりだったが、どれだけ書いても気が済まない戦争の話について移行してしまう。

エ 明るくふるまうために夏休みの話題を書いてみたが、父の死にまつわる記憶に行き着いてしまい、途端に我にかえって途方に暮れている。

問三 傍線部③「それしか方法がなかった」とあるが、その説明として明らかに適当でないものを次のア～エからすべて選び、記号で答えよ。

ア 行方のわからない父の骨のありかを知るためには、信じてもないコックリ様しか方法がなかった。

イ 実際の戦地との通信手段がなく、コックリ様しか夫や息子などの安否を確認する方法がなかった。

ウ コックリ様しか戦争未亡人と戦争遺児になった自分達の不安を解消する気晴らしの方法がなかった。

エ 恥ずかしさから声を潜めてでも、コックリ様しか夫や息子の安否に対する不安を静める方法がなかった。

問四 随筆「うみのそこ」にあわせて、次の【資料A】と【資料B】を読み、後の(1)～(4)の問いに答えよ。

【資料A】

45年の夏、女学生だった私は学徒勤労動員令によって、宿舍で暮らしながら軍の工場で爆弾の製造作業に従事していました。私たちの間ではやっていたのが「コックリさん」という占いでした。五十音が記された大きな紙の上を割りばしでたどることで質問に答える、という遊びでした。8月初めのある夜、誰かが「戦争はいつ終わりますか」と質問しました。するとリーダーの子が持つ割りばしが動き始めました。私たちは息をのんで後を追いました。何と「モウスグオワリマス」でした。連日の残業で心身ともに疲れ果てていた私たちは、「もうすぐ辛い作業から解放されるのだ」と思わず歓声を上げました。

ところが15日朝になって「正午に重大放送がある。先生方が本部へ聞きに行く」と知らされました。私たちは食堂で昼食を終え午後の作業に出発しようとしたときでした。目を真っ赤にして戻ってこられた先生から「日本が敗れた」と知らされました。「神国日本は絶対に負けない」と教えられてきた私たちにはまさに「青天の霹靂」^{へきれき}でした。^④私の胸中は複雑でした。戦後になって初めて「民主主義」を知りました。複雑な思いと引き換えに得られた民主主義を大切に守っていきたいと願います。

【谷衣子 朝日新聞・大阪版朝刊コラム 二〇一三年五月二十一日より抜粋 作問の都合上、一部改変および加筆】

【資料B】

人間は、ある種の思いがけない体験をすると、それがなぜ起こったかの「仮説」を持ち、仮説から論理的に導かれる「推論」

を行い、結果と照合して仮説を「検証」する、という思考回路を採っている。「帰納的推論」である。それで、赤信号で道路を渡れば交通事故に遭うとか、火に手を近づければ火傷をすることを学び、二度としなくなる。このように結果が明白にわかる場合は簡単だが、結果が曖昧であったり、神秘的に見える体験をしたりすると、思考に狂いが生じてくる場合がある。^⑤

例えば、ある晩、友人が夢枕に立って、翌日その人が亡くなった。予知したのか、テレパシーで知らせてきたのか、超感覚的知覚がはたらいて前もって察知できたのか、夢と死が偶然に一致したのか、ときまざまに思う（「仮説」を持つ）。何か超能力（予知能力やテレパシー）のようなものがあるのかもしれないと思いついてしまう（「推論」する）と、それによって他のことも説明できるかもしれないと欲張ってあれもこれも強引に解釈する（結果の「検証」を行う）。このような思考の流れの中で無意識のうちに超能力を信じ込んでしまう二つの事柄が続けて起こると、その解釈に多くのバイアスがかかるからだ。^{*1}

まず仮説を持ち出す段階で「確証バイアス」が入り込む。自分にとって確かそうな仮説しか思い浮かべないことだ。右の例で言えば、夢と死が偶然に一致したとはとても思えないと簡単に棄却してしまう。どの仮説も等しく考える必要があるのに、初めからある仮説を除外して考えるというバイアスがかかっているのである。

もう一つは、推論の段階で、ある目立った事柄二つ（AとBとする）が続けて起こると、ただ目立つという理由でその二つを結びつけて（Aが原因でBが起こったと）考える癖がある。この二つに関連（因果関係）があると推論してしまう傾向で、「関連性の錯誤」あるいは「相関の錯覚」と呼ばれている。夢を見たということとその人が死んだということを、必ず関連があると思いつく心的作用である。単なる偶然の一致（A、Bは無関係）とは考えないのだ。

さらに、ある仮説に対して、それに合った事例のみで判断してしまい、反証事例を検討しないということがある。例えば、ある事件の犯人がAさんだろうという仮説を持てば、日常の振る舞いでも悪いところばかりを思い浮かべてAさん犯人説を肯

定しようとする。犯人がAさんであれば、足を引きずっているはずがないとか、普段レインコートを着ているのを見たことがない、というようなAさんには合致しない証拠には目をつむってしまうのだ。これを「肯定性のバイアス」と呼ぶ。一般人は、否定的な情報（「あの人は犯人ではない。」）より肯定的な情報（「あの人が犯人だ。」）として受け入れる方が精神的負担は小さく利用しやすいので、自然のうちにそちらに傾いた思考をするのである。

【注釈】

【池内了『疑似科学入門』（岩波新書）より抜粋 作問の都合上、一部改変および加筆】

*1 バイアス 偏りや偏見、先入観を意味し、認識の歪みや思考の偏りを表す。

（1）【資料A】の傍線部④「私の胸中は複雑でした」について、その心情の理由説明として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 思いもしなかった敗戦の報に驚きと悲しさを隠せない私だったが、目を真っ赤にしている先生を見て、辛い思いをしているのは私だけでないと反省したから。

イ 負けることはないと教えられていた私にとって突然の敗戦の報は衝撃的だったが、連日の労働で心も体も疲れており、終戦をどこか心待ちにしていたから。

ウ 負けることはないと思っていた日本が戦争に負けてしまったということは悲しいが、午後の軍事作業には行かなくてよいということに安堵したから。

エ コックリさんによって日本の敗戦を事前に知っていた私にとって先生の情報は驚くべき内容ではなかったが、驚いてみせなければならず戸惑ったから。

(2) 【資料B】の傍線部⑤「思考に狂いが生じてくる」について、それはどのような場合か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 体験から得られた結果が明らかでなかったり、体験そのものが神秘的に見えたりする場合。
- イ 体験の結果が明白でなかったり、体験した出来事の影響がおぼろげであったりする場合。
- ウ 体験から導き出される推論が漠然としていたり、体験自体が現実離れしていたりする場合。
- エ 体験が曖昧かつ神秘的であったり、体験の結果が普段通りではなかったりする場合。

(3) 次は【資料B】を読んだ生徒が「バイアス」の種類についてまとめたノートである。空欄部X～Zに当てはまる適切な語を【資料B】から抜き出して答えよ。

- | |
|--|
| 1・【 X 】
自分にとって確かそうな
仮説しか思い浮かべないこと。 |
| 2・【 Y 】 (相関の錯覚)
目立った事柄二つが続けて起こると、
ただ目立つという理由で、その二つに
因果関係があると考えてしまう。 |
| 3・【 Z 】
否定的な情報よりも
肯定的な情報として受け入れる方が
精神的負担が少ないため、
仮説に対してそれに合致した事例のみで
判断してしまい、反証事例を
検討しないことがある。 |

(4) 次は、随筆「うみのそこ」と【資料A】と【資料B】を読んだ生徒たちの議論の様子である。それぞれの文章の内容理解として明らかに適当でない生徒の発言を次のア～カからすべて選び、記号で答えよ。

ア みなみさん―「うみのそこ」を読んで、母に誘われて散歩に出たエピソードがすごく印象に残った。当時の「そうか、死ねなかったのね、と思った。ほっとしたわけでもない」という気持ちがすごくリアルに感じた。ただ死ねなかっただけで、現実は何も変わっていないし、日々はそのまま続いていくだけでもんね。

イ こうたさん―「うみのそこ」でも【資料A】でも、自分一人の力ではどうすることもできない戦時中の不安や苦しみを抱えてコックリさんをやっていたんだね。「うみのそこ」の筆者は父の骨が本当に海の底にあると知った時、コックリさんを信じていた分、「やつぱりな」と落胆する気持ちも大きかったに違いないよ。

ウ がくさん―【資料B】は思いがけない体験をした時の思考の偏りについて書いてあった。結果が曖昧だったり、神秘的に思える体験をしたりすると思考に狂いが生じるみたいなんだけど、これってコックリさんにもあてはまる内容だね。

エ こうたさん―「うみのそこ」も【資料A】もコックリさんの予言が的中して見える。これを偶然の一致じゃないと思ってしまうたら、どのバイアスと言えるかな。

オ みなみさん―「関連性の錯誤」だよ。コックリさんとその後の出来事に必ず関連があると思ひ込んでしまうんだね。「この水を飲んだら病気が治る」、「地震の前にはナマズが暴れる」とかも同じ例と言える。「関連性の錯誤」に気をつけて考えれば、「うみのそこ」で父の骨のありかを誰かが、例えばお母さんが暗にそう思っていたという読み方もできるね。

カ がくさん―【資料A】の筆者はコックリさんを信じていたか定かじやないけど、どうにもならない日々を送っていると、たとえ遊びやおまじないだと分かっている、どこかで心を落ち着けるために信じてしまうこともあるんだろう。

〔三〕次の文章は『玉水物語』の一節である。場面は花園に遊ぶ姫君とその乳母の子である月冴をつきさえ一匹の狐が目にしたところから始まる。これを読み、後の問いに答えよ。本文の左に太字で付されているものは現代語訳である。また、解答は階書で丁寧に記入すること。なお、指示された表記方法以外で解答した場合不正解とする。

折節この花園に狐一つ侍りしが、^x姫君を見奉り、^{たき}「あな美しの御姿や。せめて時々もかかる御有様をよそにても見奉らば
ちようどその頃、一匹おりました お見かけし、
よそながらも見申し上げたい

や」と思ひて、木陰に立ち隠れて、しづ心なく思ひ奉りけるこそあさましけれ。^y姫君帰らせ給ひぬれば、狐も、かくてある
ものだ」と思つて、
気持ちが静まらずお慕ひしたのは
姫君がお帰りになつてしまふと、

べきことならずと思ひて、我が塚へⁱ帰りける。つくづくと座禪して身の有様を觀ずるに、「我、前の世いかなる罪の報いに

思いを巡らすと

て、かかるけだものと生まれけむ。美しき人を見そめ奉りて、およばぬ恋路に身をやつし、いたづらに消え失せなむⁱⁱうら

このような獣と生まれたのだろうか。

むなしく死んでしまふようなことは

めしけれ」とうち案じ、さめざめとうち泣きて臥し思ひけるほどに、よきに化けてこの姫君に逢ひ奉らばやと思ひけるが、ま
残念だ」と考え、

たちうち返し思ふやう、「我、姫君に逢ひ奉らば必ず御身いたづらになり給ひぬべし。父母の御嘆きといひ、世にたぐひなき
思い直したことはない
きつと御身が損なわれなさつてしまふだろう。
この世にまたとない

御有様なるをいたづらになし奉らむこといたはしく、とやかくやと思ひ乱れて明かし暮らしけるほどに^bゑじきをも服せね御姿を台無しにし申し上げるようなことはお気の毒で」と

餌をも食べないの

ば、身も疲れてⁱⁱⁱ臥し暮らしける。^①もしや見奉るとかの花園によろほひ出づれば、人に見られ、あるは飛礫^{つなで}を負ひ、あるは^zで、
よろめきながら出ていくと、
ある時は石を投げられ、

神頭^{じんとう}を射かけられ、いとど心を焦がしけるあはれなれ。^②
やじりを射かけられ、

【作問の都合上、一部改変および加筆】

問一 二重傍線部 a 「たぐひ」と b 「ゑじき」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えよ。

問二 二重傍線部 x 「が」と同じ用法のものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア わが宿のすだれ動かし秋の風吹く。

イ 雀の子を犬君が逃しつる。

ウ 巳の時ばかりなりけるが、日もやうやう暮れぬ。
エ 番頭、おのし買ったろうが。

問三 二重傍線部 y 「あさまし」と z 「いとど」の言葉の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

y 「あさまし」―ア 驚きあきれる イ 腹立たしい ウ 恥ずかしい エ 軽薄である

z 「いとど」―ア いよいよ イ しだいに ウ すぐに エ ついに

問四 空欄部 i iii に当てはまる係助詞は「ぞ」と「こそ」のいずれかである。それぞれにあてはまる適切な係助詞を選択し、答えよ。また、同じ係助詞を何度用いてもよい。

問五 傍線部①「もしや見奉るとかの花園によろび出づれば」とあるが、この動作の主体は誰か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 姫君 イ 月冴 ウ 狐 エ 父母

問六 傍線部②「あはれなれ」とあるが、これは誰から誰に対する心情か。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 姫君から狐に対する心情 イ 語り手から狐に対する心情
ウ 語り手から姫君に対する心情 エ 狐から姫君に対する心情

